

令和7年度 第1回一般介護予防事業評価委員会

介護予防事業の評価項目の設定について

令和7年7月29日
高齢支援課 介護予防推進係

前回の振り返り

振り返り① 一般介護予防事業評価事業とは

名前が一般介護予となっているが
総合事業全体を評価するとなっている

通所C・訪問Bなどサービス・
活動事業も含むということ

一般介護予防事業評価事業 — 地域支援事業実施要綱より

介護保険事業計画において定める目標値の達成状況等の検証を通じ、一般介護予防事業を含め、地域づくりの観点から総合事業全体を評価し、その評価結果に基づき事業全体の改善を目的とする。

その際、PDCA サイクルに沿って、効果的・効率的に取り組が進むよう、介護関連データを活用し、適切かつ有効に行うよう努めること。ただし、地域の実情を把握するための調査の実施にあたっては、介護保険事業計画の評価等を行う上で必要な項目を適切に選定し、調査結果に基づいて評価を行い、計画の見直しを行うこと。また、調査結果について、介護予防普及啓発事業の活用をする等、住民への情報提供に留意すること。

こんな記載も…

地域の実情に応じた効果的かつ効率的な取組を推進する観点から、市町村は定期的に事業評価を行うことが重要である。その際、参加者と非参加者との比較、他の市町村との比較、個人を識別した追跡による効果評価を行うこと等が重要であり、そのための財源として一般介護予防事業評価事業を活用することができる。

総合事業ガイドライン

総合事業については、法第 115 条の 45 の2において、市町村は、定期的に、その実施状況について、調査、分析及び評価を行うとともに、その結果に基づき必要な措置を講ずるよう努めるものとされており、当該調査、分析及び評価事務については、一般介護予防事業評価事業として実施することが可能である。当該評価の実施にあたっては、別添2の「総合事業の事業評価」を踏まえ、適切に行うこと。

地域支援事業実施要綱



つまりこういう事業

目標値設定



調査・分析



達成状況検証



事業改善

一般介護予防事業評価事業

評価・分析を行うための事業

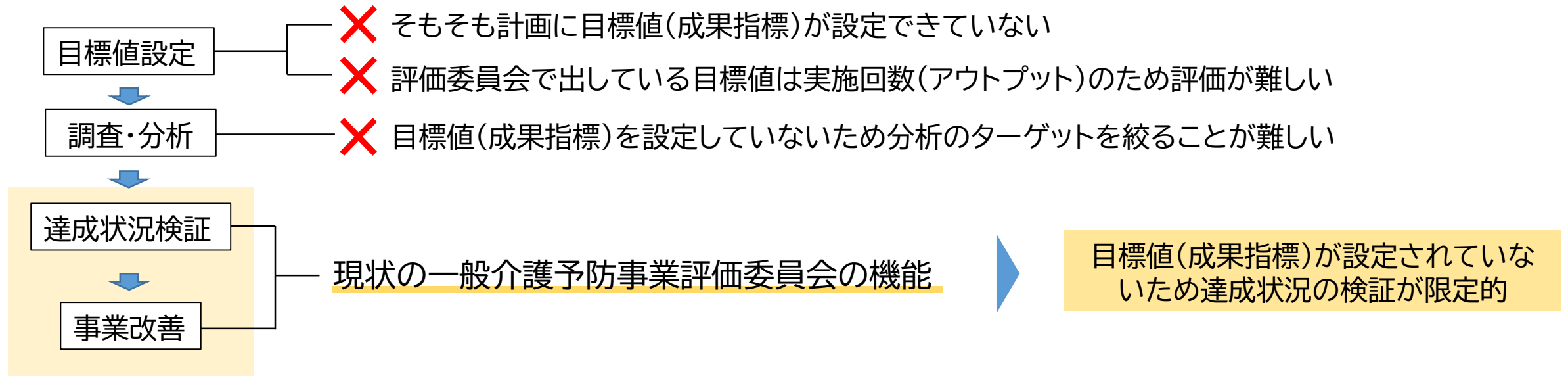
PDCAのための事業

多摩市の一般介護予防事業評価事業



一般介護予防事業評価委員会

一般介護予防事業評価委員会の機能



「目標値設定」と「調査分析」がきちんとできていなければ
一般介護予防事業評価委員会での評価が難しい

振り返り③ 評価指標の設定とロジックモデルの活用について

一般介護予防事業評価事業を意味のあるものにするためにも評価指標の設定が必要



何を狙ってどのように事業を展開するかを明らかにするためにも目指す先を明らかにすることが必要

人の入れ替わりがあっても目的を見失わないようにしたい



何を狙ってどのように事業を展開するかを明らかにするために
“ロジックモデル”を活用した事業の実施と事業の評価をする仕組みとしたい

戦略を図式化したもの

ロジックモデルとは

- ・事業やプロジェクト、政策等が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの
- ・成果(アウトカム)、結果(アウトプット)、活動、投入資源(インプット)という大きく4つの要素から構成

期待されるもこと

- ・各事業の目指す成果を明らかにすることで、事業の方向性の誤りを是正
- ・各事業が同じ成果を目指していることを明らかにし、事業の連動性も意識しながら組織的に事業を実施
- ・評価指標の設定と目標値を設定し、結果とのギャップが確認された場合に原因を分析し、ネックに対応した修正をかけていく

振り返り④ 今後の一般介護予防事業評価委員会の取組について

・ロジックモデルの枠組みの中で、一般介護予防事業評価委員会では以下の取組を行う

①評価指標の設定

- ・最終アウトカムを含めた各事業のアウトカム・アウトプットの設定に対する意見
- ・ロジックモデルの考え方の確認

②指標に対する実施内容の確認(P)

- ・指標の達成につながる実施内容であるかの確認

③指標に対する結果の確認(C)

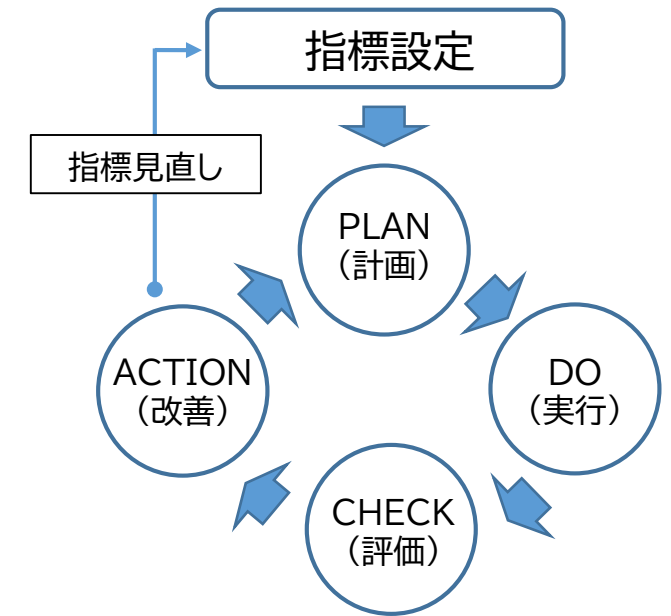
- ・現在の実施結果の報告は実施回数と参加人数を中心とした報告(アウトプットまでの報告)となっているため評価ができている状況でない
- ・アウトカムの達成状況で評価している場となれば、ここが足りないのではとか、ここもやった方がいいのではという意見が上がるはず

④評価を踏まえた実施内容の確認(A)

- ・評価委員会の意見を実施内容に反映できていないのが現状
- ・委員の意見を踏まえた次年度の実施内容に対し意見をもらう

⑤新たに実施を予定する事業の確認(P)

- ・設定したアウトカムにどのようにつながるかの説明
- ・アウトカムを前提としたフィードバックをもらう



ポイント

評価指標(アウトカム)をベースに評価を行ってもらう

➡各事業の課題はアウトカムを達成する上での課題であり、事業のための課題でないことに留意

振り返り⑤ 想定されるスケジュール

P
L
A
N

事業の始まり(計画初年度の前年)

- 5月 指標設定 前年の成果の確認
- 8月 指標確定 高齢者福祉計画確認(案)
次年度実施計画確認(案)
- 2月 次年度実施計画確認(確定)
高齢者福祉計画確認(確定)

D
O

事業の実施(計画1年目～2年目)

- 5月 前年の成果の確認(指標に基づき講評)
- 8月 次年度実施計画確認(案)
- 2月 次年度実施計画確認(確定)

※2年目は実態調査の項目の検討も必要

C
H
E
C
K

事業実施(3年目)

- 5月 中長期の成果の確認(実態調査の結果の確認)
前年の成果の確認

A
C
T
I
O
N

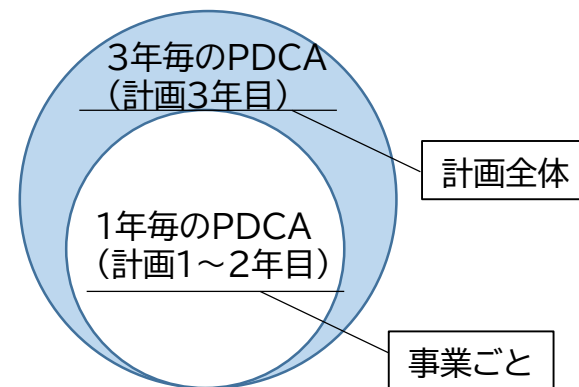
中長期の成果(中間・最終アウトカム)
の確認

3年毎のPDCA

事業ごとの成果(初期アウトカム)
の確認

1年毎のPDCA

PDCAのイメージ

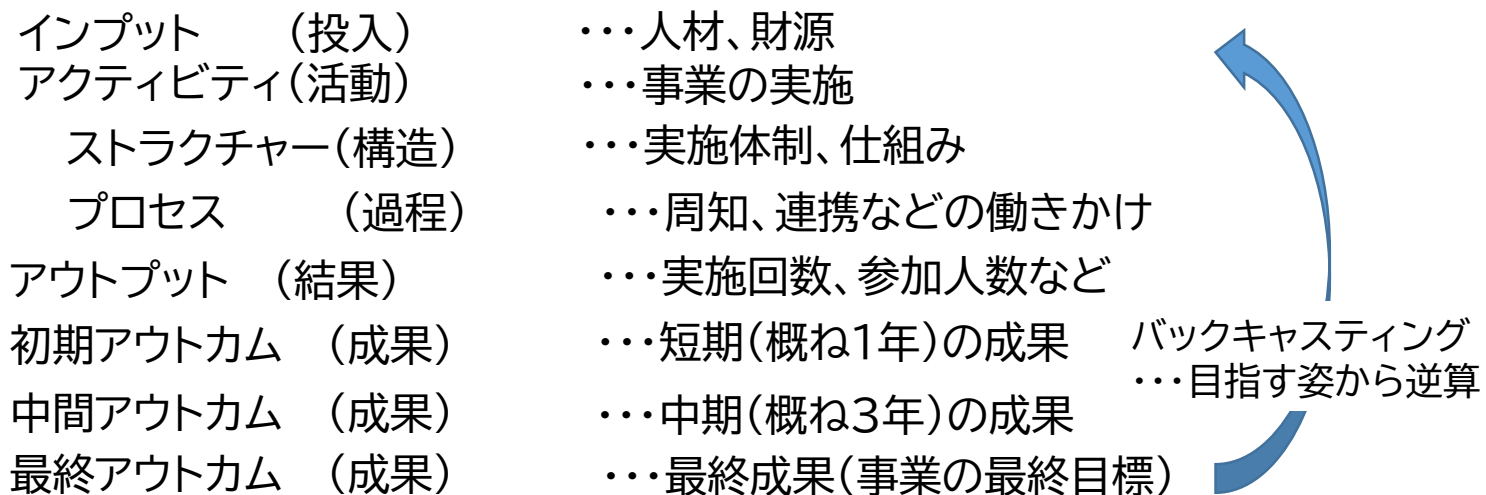


検討事項

- ➡ 令和8年度から年3回の実施
- ➡ 2年毎の改選(変更せず)

振り返り⑥ 評価指標の設定とロジックモデル

構成



留意点

- ・プロセスとしての事業もある
(例)地域介護予防教室を増やすためには介護予防リーダーの養成というプロセスが必要など
- ・アウトプットやプロセスはインプットにつながるものもある
(例)介護予防リーダーは地域のボランティアという人材など

考え方

・地域福祉計画推進委員会での意見を踏まえ、「個人」に着目した評価指標と「地域(環境)」に着目した評価指標の二つの視点を持つこととする

・事業の実施が介護予防と生活支援の両側面を合わせていることを踏まえ、「介護予防」の指標と「生活支援」の指標2つの指標を設定する

・データの取得はニーズ調査、見える化システム、KDBシステム、保健者シートなど既存の取組を活用しつつ、一部参加者等へのアンケート調査などから取得することを想定

・定量評価をベースとしながら、一部定性評価を実施する

・指標は、3年に1度のニーズ調査の質問項目をベースにししながら、参考資料に設定されている指標を活用

参考資料

- ・通いの場PDCAサイクル手引き(健康長寿医療センター)
- ・地域支援事業実施要綱
- ・保険者機能強化・努力支援交付金

※全体の評価の考え方については、「介護予防等の「取組と目標」設定の手引き」も参照

事業の評価指標について(協議事項)

1 多摩市が目指す地域

多摩市版地域包括ケアシステム

地域共生社会の実現に向けた中核的な基盤

病気になる前…
医療

- ・通院・入院
- ・病院：高度急性期、急性期、回復期、慢性期

介護が必要になったら…
介護

- ・施設・居住系サービス

●住まい

自宅
サービス付き高齢者住宅など

生きがいを持って生活する…
社会参加・就労

いつまでも元気に暮らすために…
生活支援・介護予防

- ・介護予防サービス
- ・生活支援サービス

NPO・ボランティア・老人クラブ
自治会・多摩市社会福祉協議会など

※厚生労働省資料をもとに一部改編

多摩市版地域包括ケアシステム

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと安心して自分らしい暮らしを続けることができるよう、「介護予防」「生活支援」「住まい」「医療」「介護」が一体的に提供される体制

市の政策を貫く方向性

地域共生社会

健康まちづくり

健康と幸せの獲得に繋がる知見をまちづくりに活かし、多摩市民が健康で幸せな日々を過ごせるまちを、市民、行政、市民団体、事業者、大学等が主体的に、又は、ともに連携協働し作っていく取組

ひとり一人の暮らし

- 多様性の尊重
- 気にかける関係性

- 活躍の場づくり
- 安心感のある暮らし

誰もが役割を持てる地域共生社会

- 働き手の創出
- 地域資源の有効活用

- 就労や社会参加の機会の提供
- 民間企業による生活支援への参入



様々な社会・経済活動

厚労省 地域共生社会のポータルサイトより

地域共生社会

高齢者介護、障害福祉、児童福祉、生活困窮者支援などの制度・分野の枠や、「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人一人が生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的な社会をいう

2 多摩市が目指す高齢者の姿

事業で目指すものは

幸福感をもって暮らしている高齢者を増やすこと

地域包括ケアシステムの構築
地域共生社会の実現

幸福感を持って暮らしている状態ってどういう状態？

こんな高齢者
を増やしたい

充実感を持っている

自分で選択して生活している、それぞれが大切にしていることを
続けられる、得意なこと活かして活躍し、役割を持っている

自立した生活

安心して暮らしてる

孤独や不安を感じていない

望む生活

イメージ

生きがいがある

相談できる人
がいる

健康の維持・改善
(介護予防)

出来なくなったことは
支えてもらう
(生活支援)

将来への希望

幸福

これらを達成するための
道筋をロジックモデルに
より表現しています

別紙参照

介護予防事業を評価する上で必要となる評価指標についてご意見をいただければと思います

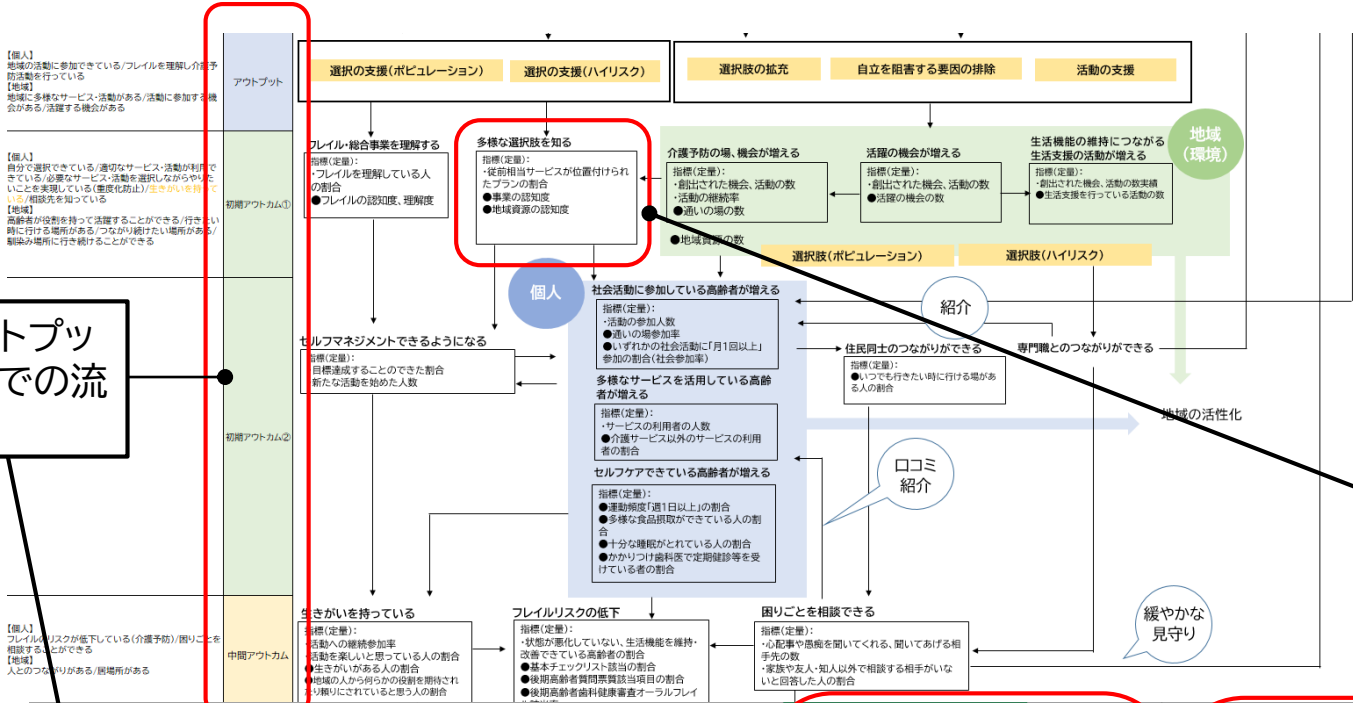
ロジックモデルの見方

上から、プロセス～アウトプット～アウトカムに至るまでの流れを図に表しています

指標一覧の見方

1年毎の定量指標です。各事業毎の実績や事業参加者へのアンケートからの取得を想定しています

3年毎の定量指標です。主にニーズ調査やシステムからの取得を想定しています



ニーズ調査の調査項目の内、標準項目が不足している場合は市の独自項目として調査項目への追加していく予定です

枠内に評価指標が記載されています。●がついているものは3年毎の評価指標です

対応

介護予防事業ロジックモデル(案)		事業毎の評価(1年毎)		地域全体の評価(3年毎)	
		定性評価	定量評価	定量評価	定量指標の取得方法
アウトプット	各事業の実施		実施回数	実績	—
	フレイル・総合事業を理解する		・フレイルを理解している人の割合	アンケート	●フレイルの認知度、理解度 ※健康推進課調査
	多様な選択肢を知る		・従前相当サービスが位置付けられたプランの割合	※取得方法未定	●事業の認知度 ●地域資源の認知度 ●従前相当サービスが位置付けられたプランの割合 ※取得方法未定
初期アウトカム①	介護予防の場、機会が増える		・創出された機会、活動の数 ・活動の継続率	実績	●通いの場の数 ・地域資源把握シート ※調査回答
	活躍の機会が増える		・創出された機会、活動の数	実績	●活躍の機会の数 ※取得方法未定
	生活機能の維持につながる生活支援の活動が増える		・創出された機会、活動の数	実績	●生活支援を行っている活動の数 地域資源把握シート

事業毎の評価

全体の評価